

平成18年度 事業報告書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. 概要

事業活動収入は、予算50,852千円に対し実績は50,283千円となり、569千円の未達、一方事業活動支出は、予算49,950千円(注1)に対し実績49,872千円で、78千円を残して予算内に収まった。その結果、事業活動収支は、予算比若干未達であったものの、実績411千円の黒字となった。

投資活動収支については、予算では新会計基準実施のためのPCおよび関係ソフト購入用として減価償却引当金取崩収入、および外債保有リスク対応のための価格変動引当金積み増し支出、合計でマイナスを見込んだ。実績では、減価償却引当金取崩・価格変動引当金は積み増したことにより円建国債への振替えと相まって財務の健全性が高まった。投資収支としてはパソコンシステム購入に伴う固定資産取得支出、コピー機老朽化に伴う固定資産廃棄損などがあり、投資活動収支差額はマイナスとなった。

この結果、事業活動収支と投資活動収支を合算した当期収支差額は、予算に対し、実績は若干未達ながら黒字を計上した。

2. 項目別・部門別増減

予算対比の増減要因を項目別に見ると、事業活動収入では、会費収入が法人会員と、個人会員で何れも未達となった。

これは、法人会員増強策が結実し、4社の入会・復帰を得たものの、一方で4社が退会となった。この結果、法人会員は全体として伸び悩んだ。

また、個人会員は、入退会がありほぼ横ばいで推移した。なお、新規会員はこの2年間160名前後と以前に比べて倍増ペースとなっている。年齢構成は40才以下が80%近くを占めている。

会費収入の不足をカバーしたのが、基本財産運用収入である。期初の予算策定時には、保有外債の先行き不透明感を背景にかなり固めに見込んだ。9本の高利回り外債の内、満期保有から外した外債3本を年度後半に為替リスクのない低利の円債に乗り

換えたが、実績としては為替の円安基調も幸いして予算比収入増となった。(予算策定時予想レートが1ユーロ = 142円台に対して決算時には1ユーロ = 157円台)

会報刊行事業では、機関誌「かけ橋」を例年通り年11回(8月号は休刊)刊行。

印刷製本費の節約に努めたが若干予算オーバーとなった。但し、新年に入り従来の第三種郵便から運送業者に変更したことで、宛名ラベル代が業者支給となって殆ど不要となり、送料も若干の削減。最大のメリットはちらしを挟み込むことができることになり、許容重量の範囲内でドイツに関わる様々な会員特典の折込ちらしを手数料を頂いて挟み込むなど、現在は予算達成を目指している。

内容については、「企業紹介」のコーナーを新たに設置、法人会員にもメリットのある記事を盛り込むよう努めた。又、「JGのページ」(青壮年部の記事)は好評につき、隔月で掲載した。

一方、広告掲載料は、予算に対し実績は若干の未達。広告掲載の募集を協会ホームページや機関誌などに掲載するなどの努力をしたが、反応は限られたものであったので、新年度は別の方法を考えて、広告集めを積極化させたい。

ドイツ語講座関係については、夏期・上期・下期・春期すべてのドイツ語講座で人件費・教室等賦課後で黒字となった。なお、ドイツ語受講者数は春期・上半期・夏期・下半期あわせてみると、2004年度 290名、05年度343名、06年度で452名と増加中である。

予算収支トントン为原则とする一般例会関係では、シュタムティッシュが今年度から毎回テーマを決めて1人の会員にレポートをしてもらい、参加者の意見交換をする形式にして参加者増を図り、何とか予算に近い数字で運営できた。

クリスマス会は参加者107名と昨年並みであったが経費圧縮が困難で、賦課前実績で若干の赤字となった。但し、初めての試みとして立食形式として、デア大使ご夫妻を初め、多くの会員同士の交流を図ることが出来、好評であった。

JG企画事業は、JGシュタムティッシュが人気を集め、秋には一時130名の参加者が会場に入りきれずに、店の外に出してしまうほどの盛況となった為、会費を値上げしたり、当日予約なしでの来訪者はお断りするなどして、現在は定員80名での開催を実施中。また、ドイツ文化普及事業として「バルトの楽園よもやま話」と題して、出目昌伸監督と平尾浩三東大名誉教授の対談を千葉県日独協会、OAGと共同開催し130名の参加者を集めたほか、ドイツ語圏の文化セミナーを7回開催するなどして収支同額とすることが出来た。

その他収入では、寄付金は期待を上回る会員のご協力を得ることができた。

管理費支出については、人件費関係では人員交代に伴う人件費が増加したため予算を超過する事となった。

旅費交通費については、予算を下回った。修繕費がコピー機等事務機器の老朽化に伴い若干の超過となった。

管理費合計としては、予算に対して若干の超過となった。

3 . 決算見込みとの対比

決算は当期収支見込より改善され結果黒字で終了することが出来た。

以上